

## 研究に対する本気度を伝える

### ■ ■ ～研究チームを通して、互いがめざす存在であり続ける～

研究室に入った瞬間、学生のさわやかな挨拶と笑顔に包まれた。穏やかで温かい雰囲気になった研究室である。

小高猛司研究室は、地盤工学シンポジウム、土木学会など、数々の学会発表において、大学院生（時には学部生）が研究発表賞や論文賞を受賞している。これらの実績を出すことができる理由は何なのか。我々取材メンバーはその秘訣に迫ろうと試みた。



朗らかに語る小高先生

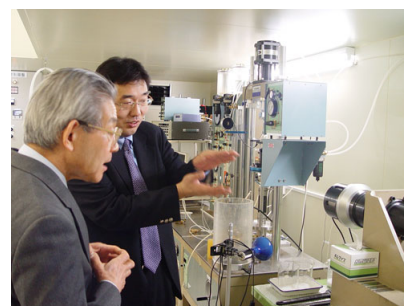
## ■ 社会人としての態度を身につけることから研究がはじまる

小高研究室では研究チームをつくって研究活動を進める。しかし、研究の推進だけが目的ではない。小高先生の研究指導では、研究チームという小さな組織の中で、社会人としての態度を身につけることを重視している。

研究は一人でできるものではないと語る小高先生は、皆の努力の積み重ねで研究活動が成り立っていることを学生が意識することが重要であると考えている。上級生は挨拶や整理整頓をはじめとして、下級生の手本となることが求められる。「研究室では社会人としての行動を日常の中で身につけてほしい」と願う小高先生は、「下級生を指導することによって、上級生の研究活動に対する心構えなどがしっかりする」と研究チームの効果を語る。冒頭の研究室での挨拶などは、日常的に実践されているものなのだろう。取材は、学生が机を並べて研究に勤むすぐそばで行われたが、互いがそばにいることが自然体であり、リラックスした心地よい雰囲気が流れている。

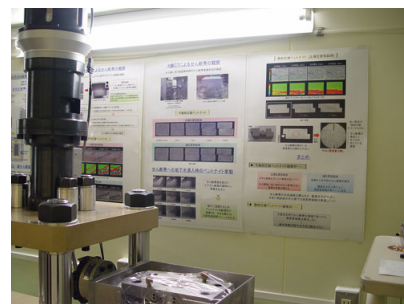
## ■ 教員が学ぶ姿を学生に見せる

研究チームの中では、学生同士の関係だけではなく、教員も同じであると語る小高先生。学生には、実験データは素直に見るように伝え、学生が出したデータは一緒に考えるようにしていると語った。そうすることで、自分の考えが違っていることや新たな視点に気が付くこともあるという。さらに、良好な師弟関係に重きを置くことを意識している。良好な師弟関係の工夫は？という問いに、小高先生は“学生に馬鹿にされない程度に教員も勉強すること”と率直に答える。



実験室で大学院生の研究内容について説明

教員が研究に打ち込む姿を見せることもあえて行う。毎月大学で学会企画の講習会を開催する。そうすることで学生の頃から学会活動に慣れ親しむことができ、教員が学会で汗を流す現場を見てもらうという小高先生。研究発表会で積極的に討議に参加する姿を見せることが、学生が学会で委縮しないために大事だと考える。同時に、他大学の研究室にも機会を見つけて学生を連れていくようにしている。



実験室には大学院生の学会発表のポスターが貼られている

## 研究の価値を伝える

研究チームをつくって研究を進めている研究室は多い。しかし、小高研究室では、研究チームを通して互いがめざす存在であり続けることをめざしている。

取材中、小高先生が何度も繰り返す言葉があった。

「教員の研究に対する本気度を伝えたい」。

大学院生に学会活動への積極的な参加を促すのも、自分の研究テーマに社会的な価値があることを自覚させるためであり、なぜその研究が社会から求められているかを、自ら問い直す機会として重要であるという。研究は答えのない課題に挑戦し続けるプロセスであるが、そんな小高先生の研究に対する後ろ姿を学生は追いかけているのだろう。小高先生の温かい瞳には、研究に対する真摯なまなざしがある。

“小高先生は実験室まで一緒に足を運んでくれる”と楽しそうに話す学生の顔から、学生とともに研究をみつけ、ともに困難を乗り越えながら走る指導教員の姿こそが、学生の学びの支えなのではないかと思った。



研究室の雰囲気や研究活動について話す  
中島康介さんと寺本優子さん

記事作成：大学教育開発センター 神保啓子

### 取材概要

日時	2010年3月2日（火）15時半～16時半
取材場所	天白キャンパス 4号館 B09研究室
取材対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 理工学研究科 建設システム工学専攻 小高猛司先生</li><li>■ 中島康介さん（修士課程2年）<ul style="list-style-type: none"><li>○ 地盤工学会 第44回地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞</li><li>○ 土木学会 2009年度全国大会第64回年次学術講演会 優秀講演者</li><li>○ 地盤工学会 第54回地盤工学シンポジウムシンポジウム 優秀論文賞</li></ul></li><li>■ 寺本優子さん（修士課程2年）<ul style="list-style-type: none"><li>○ 土木学会中部支部 2007年度研究発表会 優秀研究発表賞</li><li>○ 地盤工学会 第54回地盤工学シンポジウムシンポジウム 優秀論文賞</li></ul></li></ul>
取材メンバー	薬学部 西田幹夫委員、法務研究科 佐藤學委員 大学教育開発センター 神保啓子